

令和6年度 事業計画書

1. 財務体質の強化

昨年度は役員・職員・館生が一体となり、収入増と経費削減に取り組んだ結果、期末現預金残高は 10,464 千円、前年比約 2.2 倍と大きく改善する見込みです。今年度も業務改革の手綱を緩めることなく、更なる財務体質の強化に取り組んで参ります。毎期末に引当する大規模修繕積立金については、今後 500 千円から 1,500 千円に増額し、将来の大規模修繕に備えます。

2. 館生 40 名体制の確保

昨年度は推薦入試に対応した早期の募集活動が功を奏し、一昨年度 4 名から大幅に増加、過去最大規模となる 19 名もの新館生を迎えることができました。今後は少子化の加速など時代の流れを先読みした応募資格を模索しつつ、募集情宣活動の見直し、最適な入館面接時期の設定などにより安定確保に努めて参ります。

3. 法人組織運営の若返り

現役員の高齢化が顕著であり、若い世代への交代が待たなしの状況となっております。6月の定時評議員会をもって現理事は任期満了となりますが、自覚と責任を持って運営に当たれる若い世代の新理事選任を着実に進めます。

4. 行事内容の見直し

館生との意見交換、協議を継続し、役員側に負担が大きかった行事内容を見直します。館生主導で企画実行し、館生が前向き、積極的に参加できる行事(記念祭、セミナーなど)を支援します。

5. 育英事業協力金の継続取組

法人会員会費納入の確実なフォローと、卒館生への納入要請活動をあらゆる機会をとらえて実施します。卒館生の中でも若い世代の関心が薄く、近い将来協力金が先細りになっていくことが想定されるため、卒退館時に一括回収するなど、納入方法についても検討を進めます。今年度の目標額は 260 万円とします。